

- 問1 室町時代、近江の馬借などが中心となって大規模な土一揆が発生し、幕府に対して「借金の帳消し」を公式に認めるよう強く要求しました。当時の農民や商工業者が、このように集団で実行使に及んでまで負債の免除を求めた社会的な背景として最も適切なものはどれですか。 (2025年 三重県公立入試 類似)
1. 元寇の恩賞として十分な土地が与えられず、幕府に対する武士たちの不満が農民に伝播したため
2. 惣領制が解体して土地の分割相続が一般化したことで、個々の農民の所有地が減少したため
3. キリスト教の伝来とともに、すべての負債を平等に抹消すべきであるという思想が広まったため
4. 貨幣経済が農村にも浸透し、土倉や酒屋などの高利貸に対する借金が生活を圧迫していたため
- 問2 15世紀の略年表に、禅僧である雪舟が明へ渡ったという記録があります。彼が当時の中国で学んだ技法を基に、日本において大成させた芸術様式はどれですか。 (2026年 長野県公立入試 類似)
1. 大和絵
2. 浮世絵
3. 唐絵
4. 水墨画
- 問3 15世紀初めに沖縄本島を統一して建国され、首里城を王城として中国や日本、東南アジアを結ぶ中継貿易で栄えた国の名称として正しいものはどれですか。 (2018年 群馬県公立入試 類似)
1. 鎮守府
2. 蝦夷地
3. 薩摩藩
4. 琉球王国
- 問4 15世紀の東アジアから東南アジアにかけての貿易について述べた文として、当時の琉球王国が行っていた貿易の実態を正しく説明しているものはどれですか。 (2025年 奈良県公立入試 類似)
1. 特定の国とのみ貿易を行うために、他国との交流を厳しく制限し、自国の港を管理下に置いて独占的な取引を行った。
2. 外国から輸入した原材料を国内で高度な工芸品に加工し、付加価値を高めてから近隣諸国へ輸出した。
3. 国内で生産されたサトウキビや黒糖を主な輸出品とし、中国から輸入した銅銭と交換することで富を蓄えた。
4. 中国や日本、東南アジア諸国の間に立ち、各地の特産品を仕入れて他国へ転売し、その差額で利益を得た。
- 問5 1333年に足利尊氏や新田義貞らの協力を得て鎌倉幕府を滅ぼした後、後醍醐天皇が自ら中心となって始めた、天皇による新しい政治体制を何と呼びますか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
1. 院政
2. 建武の新政
3. 摂関政治
4. 寛政の改革
- 問6 室町幕府において、足利將軍を補佐して幕政を統括した中心的な役職を何とといいますか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
1. 管領
2. 老中
3. 執権
4. 内大臣
- 問7 室町幕府の統治機構は、先行する武家政権の仕組みを継承しながらも、地方統治を強化する特徴を持っていました。將軍の直下に置かれた役職と、東国の統治を担った組織の組み合わせとして正しいものを選択してください。 (2024年 徳島県公立入試 類似)
1. 管領と鎌倉府
2. 執権と六波羅探題
3. 老中と京都所司代
4. 大老と長崎奉行
- 問8 室町時代に足利義満が明と国交を開いた際、海上で活動する海賊集団（倭寇）と正式な貿易船を区別するために導入された仕組みについて説明したものとして、正しいものはどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
1. 元軍の侵攻を防いだ功績を認められ、特定の商人にのみ貿易権が与えられた。
2. 幕府が発行した「朱印状」という許可証を携帯し、東南アジア諸国とも取引を行った。
3. 博多湾に築かれた石垣（防塁）の通行許可証を提示することで、安全を確保した。
4. 文字の左半分などが記された「勘合」という札を、明側の札と照合して確認した。
- 問9 琉球王国が東アジアや東南アジアとの貿易で繁栄した背景には、当時の中国との密接な関係がありました。琉球王国が朝貢を行い、貿易を継続していた中国の王朝名を答えなさい。 (2025年 秋田県公立入試 類似)
1. 宋
2. 唐
3. 明
4. 元
- 問10 室町時代に行われた日明貿易において、正規の貿易船であることを証明し、当時「倭寇」と呼ばれた海賊と区別するために導入された「合い札」の名称を答えなさい。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
1. 割符
2. 飛脚問屋の鑑札
3. 勘合
4. 朱印状
- 問11 中世における近畿地方の物流について、日本海沿岸から京都へ物資が運ばれる経路と、その仕組みを説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
1. 日本海から直接、大型船を京都の市街地まで乗り入れさせる運河が整備された。
2. すべての物資は琵琶湖を通らず、北陸から京都まで一貫して牛車を用いた陸路で運ばれた。
3. 琵琶湖での船による水上輸送と、大津から京都までの馬借による陸上輸送が組み合わせられていた。
4. 物流の混乱を防ぐため、物資の移動は禁じられ、京都周辺の生産物のみが流通した。
- 問12 室町幕府の3代將軍である足利義満が、明との貿易を開始した際に導入された制度について説明します。当時、東アジアの沿岸部で活動していた海賊（倭寇）と、正式な貿易船を区別するために用いられた「合い札」の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。 (2016年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 勘合
2. 奉書
3. 朱印状
4. 往来手形
- 問13 14世紀、鎌倉幕府を倒したのちに、天皇自らが政治を行う「建武の新政」を開始した人物として正しいものを選びなさい。 (2025年 岐阜県公立入試 類似)
1. 後白河上皇
2. 後醍醐天皇
3. 桓武天皇
4. 後鳥羽上皇
- 問14 15世紀ごろ、琉球王国が東アジアや東南アジアを結ぶ交易で大きな利益を上げることができた背景には、当時の明（中国）が行っていた政策が深く関わっています。その政策の内容と琉球の関係について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2025年 山口県公立入試 類似)
1. 明がキリスト教の布教を伴う貿易を奨励したため、キリスト教を受け入れた琉球王国は、ヨーロッパ諸国とアジアを結ぶ唯一の窓口となった。
2. 明が民間人の自由な海外渡航や貿易を制限する海禁政策をとるなかで、琉球は正式な朝貢国として貿易を認められ、各地の産物を明に運ぶ役割を担った。
3. 明が日本との間で勘合（合札）を用いた貿易を独占的に行ったため、その中継地点として琉球の港が明によって直接管理・運営された。
4. 明が東南アジア諸国との貿易を全面的に禁止したため、琉球は明の許可を得ることなく、密貿易の拠点として東南アジアの香料を日本へ運んだ。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 貨幣経済が農村にも浸透し、土倉や酒屋などの高利貸に対する借金が生活を圧迫していたため	室町時代には貨幣経済の発展により、農民も年貢の銭納や物品購入のために貨幣を必要とするようになりました。凶作や重税が重なると、農民は土倉や酒屋といった高利貸から借金をせざるを得ず、生活が立ち行かなくなりました。これに耐えかねた人々が団結（一揆）し、借金の無効化を求める徳政一揆を頻発させるようになりました。
問2	答え 4 水墨画	雪舟は明で直接中国の山水画を学び、それまでの模倣に留まらない、日本の自然観に根ざした力強い構図の水墨画を確立しました。浮世絵は江戸時代の町人文化、大和絵は平安時代に発達した日本風の絵画を指すため、時代背景が異なります。
問3	答え 4 琉球王国	15世紀初めに尚氏によって統一された琉球王国は、首里城を政治・文化の中心としました。地理的優位性を活かして周辺諸国との貿易で繁栄し、中国の冊封体制に加わりながらも日本とも交流を持つ独自の国家体制を築きました。
問4	答え 4 中国や日本、東南アジア諸国の間に立ち、各地の特産品を仕入れて他国へ転売し、その差額で利益を得た。	琉球王国は「万国津梁（あらゆる世界の架け橋）」を掲げ、自国の産品を売るよりも、他国の物資を中継して運ぶことに特化していました。具体的には、中国（明）に対しては朝貢貿易を行い、そこで得た品物を日本や東南アジアに持ち込むといった、広範囲なネットワークを構築していました。
問5	答え 2 建武の新政	鎌倉幕府の滅亡後、後醍醐天皇はそれまでの幕府による政治を否定し、天皇が直接政治を行う理想を掲げました。この政治は元号にちなんで「建武の新政」と呼ばれますが、武士の期待に十分に答えられなかったため、短期間で崩壊することとなりました。
問6	答え 1 管領	室町幕府の政治組織において、将軍の補佐役として置かれた最高職が管領です。鎌倉幕府における執権や、江戸幕府における老中に相当する役割を担いました。有力な守護大名である細川氏・斯波氏・畠山氏の3家が交代で任命されたため、これらは「三管領」と呼ばれています。
問7	答え 1 管領と鎌倉府	室町幕府の中央組織では将軍の下に「管領」が置かれ、侍所・政所・問注所といった鎌倉幕府以来の機構を統括しました。また、地方組織としては、関東10か国を統治するために「鎌倉府」を置いたことが大きな特徴です。執権と六波羅探題は鎌倉幕府の、老中や京都所司代、大老などは江戸幕府の組織です。
問8	答え 4 文字の左半分などが記された「勘合」という札を、明側の札と照合して確認した。	足利義満は、明からの要求であった倭寇（海賊集団）の取り締まりを条件に、明との正式な貿易を開始しました。この際、密貿易船や倭寇と区別するために、文字が半分ずつ書かれた「勘合（勘合符）」という札を合わせることで、正式な船であることを証明しました。江戸時代に用いられた「朱印状」や、鎌倉時代の元寇に関連する「石垣（防塁）」と混同しないよう注意が必要です。
問9	答え 3 明	琉球王国は中国の明に対して朝貢を行い、臣下としての礼をとることで正式な貿易を認められていました。これにより中国の絹織物や陶磁器を安定して入手し、それを他のアジア諸国へ運ぶ貿易体制を確立しました。
問10	答え 3 勘合	足利義満が明の皇帝と国交を結んで始めた日明貿易では、明が発行した「勘合（勘合符）」という札が使用されました。この札は、当時東アジアの沿岸部で略奪を行っていた倭寇と、幕府が公認した正規の貿易船を明確に判別するための道具です。日本側と明側がそれぞれ半分に分けた札を持ち、港でそれらを突き合わせて照合したことから、この貿易は「勘合貿易」とも呼ばれます。
問11	答え 3 琵琶湖での船による水上輸送と、大津から京都までの馬借による陸上輸送が組み合わされていた。	北陸などの日本海側から届いた物資は、敦賀などの港から陸路で琵琶湖の北岸へと運ばれました。そこから琵琶湖を縦断する船での水上輸送が行われ、大津などの港で荷揚げされた後、馬借たちの手によって陸路で消費地である京都へと届けられました。このように、自然の地形を活かした水陸の連携が中世の物流を支えていました。
問12	答え 1 勘合	足利義満は明の皇帝から日本国王として認められ、日明貿易を開始しました。この貿易では、倭寇という海賊集団による密貿易や略奪を防ぐため、「勘合」と呼ばれる帳簿と照らし合わせる合い札が使用されました。これにより、正式な許可を得た船だけが貿易を行うことができました。なお、朱印状はのちの安土桃山時代から江戸時代初期にかけての海外渡航許可証を指します。
問13	答え 2 後醍醐天皇	鎌倉幕府を倒した後の1333年、後醍醐天皇は、長らく続いた武家政治を否定し、天皇が直接政治を執り行う「建武の新政」を始めました。しかし、この政治は公家を極端に優遇するものだったため、討幕に協力した武士たちの強い不満を招き、わずか数年で崩壊することとなりました。
問14	答え 2 明が民間人の自由な海外渡航や貿易を制限する海禁政策をとるなかで、琉球は正式な朝貢国として貿易を認められ、各地の産物を明に運ぶ役割を担った。	当時の明は「海禁」という政策により、許可のない私的な海外貿易を厳しく禁じていました。しかし、明の皇帝に対して貢ぎ物を捧げる「朝貢」の形式をとる貿易は認められていたため、琉球はこの仕組みを利用して、明が欲しがると東南アジアの産物や日本の品物を運び入れました。周辺諸国の貿易が制限されていたからこそ、朝貢を許された琉球の仲介機能が極めて重要なものとなりました。